

合従連衡進む世界の農薬市場

業界団体や個別企業へヒアリングするなどして、合従連衡が進む世界の農薬業界の現状を整理した。

1. 世界農薬市場規模推移

世界の農薬市場は 96 年以降漸減傾向にある。2000 年の市場規模は 290 億ドル（前年度比▲3.9%）で、ピークの 96 年と比べると 35 億ドル、率にして 13.1%減少している。

直近のウッドマッキンジーの調査によると、02 年 1~9 月期の世界農薬市場全体の市場規模は前年同期比▲4.5%となった。減少の理由は、北米の天候不良による除草剤の売上高減や南米諸国での経済危機の影響などである。欧米主要農薬メーカーの同売上高は、南米の経済危機の影響で減少している。特にモンサント¹は、米国市場においても、同社の主力製品である除草剤のラウンドアップに対する競合品の拡販で市場を奪われ二ケタの減少となり、ダウ・アグロサイエンスだけが新製品（除草剤グリホサートと殺虫剤スピノサッドやシロアリの駆除システムなど）の拡販により横這いとなった。

① 地域別世界市場

地域別に見ると、西欧と東欧を合計した欧州地域は、96 年には 89 億ドルであった市場規模が、00 年には 63 億ドルに減少している。また、最も大きい北米市場も 95 億ドルから 85 億ドルに 10 億ドル減少している。欧州や北米市場は環境に対する意識の高まりなどから縮小していると推測される（表 1）。

表1 農薬地域別世界市場推移予測

（単位：百万 \$）

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001 F	2002 F	2003 F	2004 F	2005 F
北米	9,153	9,542	9,566	9,028	8,229	8,487	8,276	8,343	8,392	8,512	8,694
南米	3,820	4,378	4,417	4,815	4,381	4,438	4,399	4,230	4,311	4,336	4,285
西欧	7,611	7,829	6,750	7,064	6,768	5,520	5,330	5,432	5,657	6,003	6,136
東欧	1,069	1,112	870	936	853	772	804	766	788	832	864
極東	8,277	8,089	7,371	7,074	7,933	7,958	7,728	7,775	7,862	7,924	8,094
その他	1,516	1,537	1,952	1,816	1,967	1,787	1,703	1,697	1,687	1,607	1,662
合計	31,446	32,487	30,926	30,733	30,131	28,962	28,240	28,243	28,697	29,214	29,735

（資料）ウッド マッキンジー

2001以降は予測

¹ 02 年 12 月にヘンドリック・ベルファイリー CEO が責任を取り、辞任を自主的に申し入れ、取締役会が承認した。同社は業績の大幅な悪化で株価も低迷している。

00 年の地域別シェアを見ると、北米が約 29%、極東が約 28%、南米が約 15%、西欧が約 19%、東欧が約 3%、その他が約 6%となっている。96 年と比べると、北米と東欧地域はほぼ横這い。南米・極東地域がシェアを伸ばし、西欧地域がシェアを落としている（表 2）。

表 2 農薬地域別世界市場シェア推移予測

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001 F	2002 F	2003 F	2004 F	2005 F
北米	29.1%	29.4%	30.9%	29.4%	27.3%	29.3%	29.3%	29.5%	29.2%	29.1%	29.2%
南米	12.1%	13.5%	14.3%	15.7%	14.5%	15.3%	15.6%	15.0%	15.0%	14.8%	14.4%
西欧	24.2%	24.1%	21.8%	23.0%	22.5%	19.1%	18.9%	19.2%	19.7%	20.5%	20.6%
東欧	3.4%	3.4%	2.8%	3.0%	2.8%	2.7%	2.8%	2.7%	2.7%	2.8%	2.9%
極東	26.3%	24.9%	23.8%	23.0%	26.3%	27.5%	27.4%	27.5%	27.4%	27.1%	27.2%
その他	4.8%	4.7%	6.3%	5.9%	6.5%	6.2%	6.0%	6.0%	5.9%	5.5%	5.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(資料) ウッド マッキンジー

2001以降は予測

② 製品別世界市場推移

00 年の市場を製品別に見ると、除草剤が 138 億ドル、殺虫剤が 80 億ドル、殺菌剤 58 億ドルとなっている。96 年に比べると除草剤が 24 億ドル減少したのをはじめ、殺虫剤が 6 億ドル、殺菌剤が 3 億ドル減少している。業界では 03 年から南米市場の拡大による除草剤の回復を契機に、市場は僅かながら拡大に転じると予想している（表 3）。しかし、直近のウッドマッキンジーの調査では、南米市場は経済危機のため市場の拡大は当面見込めず、マーケットは漸減基調となりそうである。

表 3 農薬製品別世界市場推移予測

(単位: 百万 \$)

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001 F	2002 F	2003 F	2004 F	2005 F
除草剤	15,174	16,155	15,642	15,209	14,337	13,794	13,497	13,492	13,744	14,034	14,340
殺虫剤	8,462	8,592	8,190	8,053	8,254	8,009	7,801	7,704	7,742	7,847	7,877
殺菌剤	6,337	6,149	5,838	6,030	6,067	5,801	5,637	5,747	5,900	6,011	6,175
その他	1,473	1,591	1,256	1,441	1,473	1,358	1,305	1,300	1,311	1,322	1,303
合計	31,446	32,487	30,926	30,733	30,131	28,962	28,240	28,243	28,697	29,214	29,695

(資料) ウッド マッキンジー

2001以降は予測

表 4 農薬製品別世界市場シェア推移予測

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001 F	2002 F	2003 F	2004 F	2005 F
除草剤	48.3%	49.7%	50.6%	49.5%	47.6%	47.6%	47.8%	47.8%	47.9%	48.0%	48.3%
殺虫剤	26.9%	26.4%	26.5%	26.2%	27.4%	27.7%	27.6%	27.3%	27.0%	26.9%	26.5%
殺菌剤	20.2%	18.9%	18.9%	19.6%	20.1%	20.0%	20.0%	20.3%	20.6%	20.6%	20.8%
その他	4.7%	4.9%	4.1%	4.7%	4.9%	4.7%	4.6%	4.6%	4.6%	4.5%	4.4%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

(資料) ウッド マッキンジー

2001以降は予測

2. 業界地図

世界の農業市場は上位 7 社で市場全体の 80%を占める寡占市場である（表 5）。ここ数年、業界は大型合併による再編途上であり、00 年のシンジェンタ（ゼネカ + ノバルティス）、01 年のダウ（ダウ + ローム&ハース）、02 年のバイエル（アベンティス + バイエル）等、次々と巨大企業が誕生している（表 5）。

上位 20 社は多国籍企業グループ、2 番手グループ、3 番手グループの 3 つに分けることができる。

① 国籍企業グループ

巨額の研究開発費（一般的に売上の 10%）を投じて新製品の開発をおこない、独自の販売ルートにより自社製品を販売する企業グループ。売上高は 20 億ドル以上、売上高総利益率は 70～80%に上る。

シンジェンタ、アベンティス、モンサント、バース、ダウ、バイエル、デュポンがこのグループにあたる。住友化学、FMC も売上高は小さいものの、同様のビジネスモデルを指向している。

② 2 番手グループ

自社で多額の研究開発費を要する新製品開発はおこなわず、他社から購入した剤やライセンス製造・販売に特化する企業グループで、自社製品と他社製品の両方を販売する。自社製品は中間剤（他の剤と混合するもの）と最終剤（そのまま販売できるもの）がある。自社製品で 40～50%、他社製品で 20～30%の利益率を確保している。Makhteshim-Agan、アリスライフサイエンスがこのグループにあたる。

③ 3 番手グループ

売上高 4 億ドル未満の企業グループであり、自国内のマーケットで製造・販売を行っている。日本の農業メーカーの多くがこのグループで、クミアイ化学、三共、北興化学、日本農薬、武田薬品がこのグループにあたる。

表 5 農業売上高世界ランキング

単位：百万\$

2001 (2000) 順位	企業名	金額
1 (1)	Syngenta	5,385
2 (3)	Aventis	3,842
3 (2)	Monsanto	3,755
4 (6)	BASF	3,105
5 (4)	Dow	2,612
6 (5)	Bayer	2,418
7 (7)	DuPont	1,917
8 (9)	Makhteshim-Agan Industries	784
9 (8)	住友化学	733
10 (14)	アリスタ（同社）	703
11 (10)	FMC	653
12 (11)	Nufam	476
13 (12)	Griffin	400
14 (16)	Cheminova	390
15 (13)	クミアイ化学	349
16 (15)	三共	313
17 (18)	北興化学	282
18 (17)	日本農薬	276
19 (19)	日産化学	265
20 (20)	武田薬品	250

（資料）ウッドマッキング

3. 買収・合併を機に剤の放出が進む

ここ数年、多国籍企業グループは買収・合併を繰り返し、事業規模の拡大を図っている。背景には増加する研究開発費の負担能力を向上させることがあり、小規模メーカーでは大型の新製品開発が困難となってきた。業界の一部には、いずれは多国籍企業グループも巨大企業が数社しか残らないとの見方がある。多額の研究開発費負担²に耐えられない 2、3 番手以下の企業は新製品の開発は行わず、ニッチ市場を狙ったり、大手メーカーからこぼれてくる剤を取得し、間尺の合った経営をおこなうことにより、生き残ろうとしている。

欧米で買収・合併が進むにつれて、独占禁止法との関係で合併する会社が保有している剤や事業の一部を放出する動きが盛んにおこなわれてきた。例えば、バイエル(独)はアベンティス(仏)から農薬子会社クロップサイエンスを買収(金額約 72.5 億ユーロ=約 8,700 億円)したが、欧州・米国・カナダの公正取引委員会は独占禁止法に抵触するとしてバイエルに対し事業の一部や剤の売却を勧告している。この勧告に従い、バイエルは統合後のポートフォリオで機能が重複する、または不得意とする事業や剤などの売却を進めており、今後 2～3 年間に 30～40 億ドルが市場に放出されるとの見方もある。また、業界では新製品の市場投入を加速する一方、不採算品目を整理することで収益性の向上を図る動きが出ている。このような中で剤の放出は今後も 10 年程度は続くと思われる。

4. 合従連衡の動きは海外から国内へとシフト

欧州を始めとする海外の合従連衡の動きが終盤に近付きつつあり³、縮小する国内市場に、巨大化した外資系メーカーの本格的参入が相次ぐなかで、国内メーカーにも合従連衡の動きが顕在化している。例えば、02 年 10 月には日本農薬はトモノアグリカ製品の買収に続き、三菱化学の農業事業を譲受けている。また、02 年 11 月には、住友化学と武田薬品が事業提携し、両社が合併で設立する新会社に武田薬品の農業事業を譲渡した。新会社は 5 年後には住友化学の農業事業との統合を視野に入れている。03 年 1 月には昭和電工が宇部興産の農業事業を譲り受けた。

業界には、国内はこれからが合従連衡の正念場となるとの見方が強い。特にシンジェンタ、ダウなどの大手外資は着々と直販比率を高めつつあり、今後、2～3 年のうちに優勝劣敗が鮮明化しそうである。

(田中順: tanakaju@sumitomotruster.co.jp)

² 農薬は作物毎に 1 つずつ登録しなければならず、業界では『1 剤、70 億円、10 年』と言われている。

³ 欧州におけるこれ以上の大型合併は、独占禁止法の観点からも行われまいという見方が強い。